

【公報種別】 特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
【部門区分】 第 6 部門第 3 区分
【発行日】 令和 5 年 3 月 7 日(2023.3.7)

【公開番号】 特開 2022-49189(P2022-49189A)
【公開日】 令和 4 年 3 月 29 日(2022.3.29)
【年通号数】 公開公報(特許)2022-055
【出願番号】 特願 2020-155266(P2020-155266)
【国際特許分類】

G 0 8 G 1/00(2006.01)

G 0 7 C 5/00(2006.01)

【F I】

G 0 8 G 1/00 D

G 0 7 C 5/00 Z

【手続補正書】
【提出日】 令和 5 年 2 月 27 日(2023.2.27)
【手続補正 1】

【補正対象書類名】 特許請求の範囲
【補正対象項目名】 全文
【補正方法】 変更
【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

制御部を備え、

前記制御部は、

撮像装置で自車両の周囲を撮像した画像に基づいて、前記自車両の側方に存在する他車両を検出し、

検出された前記自車両の側方に存在する他車両と前記自車両との距離が所定の閾値未満となった場合に、前記自車両の側方に存在する他車両が前記自車両に対して危険運転を行っている」と判定し、

前記危険運転を行っている」と判定された場合に、前記画像を記憶部に記憶すること
を特徴とする画像記録装置。

【請求項 2】

前記制御部は、

前記他車両と前記自車両との距離が所定の閾値未満となった時間が所定時間以上継続した場合に、前記危険運転を行っている」と判定すること

を特徴とする請求項 1 に記載の画像記録装置。

【請求項 3】

制御部を備え、

前記制御部は、

撮像装置で自車両の周囲を撮像した画像に基づいて、前記自車両の前側方に存在する他車両を検出し、

前記自車両の前側方に存在する他車両と前記自車両との距離が所定の閾値未満となり、かつ、前記自車両の前側方に存在する他車両のウinkerが未検出であった場合に、前記自車両の前側方に存在する他車両が前記自車両に対して危険運転を行っている」と判定すること

を特徴とする画像記録装置。

【請求項 4】

制御部を備え、

10

20

30

40

50

前記制御部は、

撮像装置で自車両の周囲を撮像した画像に基づいて、前記自車両の前方に存在する他車両を検出し、

前記自車両の前方に存在する他車両が急減速することで、前記自車両の前方に存在する他車両と前記自車両との距離が所定の閾値未満となった場合に、前記自車両の前方に存在する他車両が前記自車両に対して危険運転を行っているとは判定すること

を特徴とする画像記録装置。

【請求項5】

制御部を備え、

前記制御部は、

撮像装置で自車両の周囲を撮像した画像に基づいて、前記自車両の後方に存在する他車両を検出し、

前記自車両の後方に存在する他車両と前記自車両との距離が所定の閾値未満となり、かつ、前記自車両の後方に存在する他車両から腕または顔が露出していることが検出された場合に、前記自車両の後方に存在する他車両が前記自車両に対して危険運転を行っているとは判定すること

を特徴とする画像記録装置。

【請求項6】

制御部を備え、

前記制御部は、

撮像装置で自車両の周囲を撮像した画像に基づいて、前記自車両の後方に存在する他車両を検出し、

前記自車両の後方に存在する他車両と前記自車両との距離が所定の閾値未満となり、かつ、前記自車両の後方に存在する他車両のヘッドライトが点滅していることが検出された場合に、前記自車両の後方に存在する他車両が前記自車両に対して危険運転を行っているとは判定すること

を特徴とする画像記録装置。

【請求項7】

撮像装置で自車両の周囲を撮像した画像に基づいて、前記自車両の側方に存在する他車両を検出する検出工程と、

前記検出工程によって検出された前記自車両の側方に存在する他車両と前記自車両との距離が所定の閾値未満となった場合に、前記自車両の側方に存在する他車両が前記自車両に対して危険運転を行っているとは判定する判定工程と、

前記判定工程によって前記危険運転を行っているとは判定された場合に、前記画像を記憶部に記憶する記憶処理工程と

を含むことを特徴とする画像記録方法。

10

20

30

40

50